

高瀬地区かわまちづくり計画書

平成25年1月

高瀬地区かわまちづくり協議会

目次

はじめに	1
1. 菊池川及び玉名市の概要	2
1.1 菊池川の概要	2
1.2 玉名市の概要	3
1.3 現在進行しているまちづくり計画	5
1.3.1 第1次 玉名市総合計画（H19～H28年度）	5
1.3.2 玉名都市計画区域マスタープラン	6
1.3.3 玉名21の星事業（玉名町校区）	8
1.3.4 都市再生整備計画事業	9
2. かわまちづくり構想	10
2.1 高瀬地区かわまちづくりのテーマ	10
2.2 高瀬かわまちづくりへの意見	11
2.2.1 高瀬船着場跡（俵ころがし）周辺	12
2.2.2 周遊ルート（ネットワークルート）	14
2.2.3 その他	15
2.3 利活用の方向性	17
2.3.1 高瀬船着場跡を観光拠点として活用	17
2.3.2 子どもたちの環境学習や体験活動の場	17
2.3.3 広大な河川敷を利用したイベントや防災訓練	17
2.4 維持管理	18
3. 巻末資料	19
3.1 推進体制	19
3.2 計画策定の経緯	20
3.3 協議会委員	21

はじめに

菊池川の下流部に位置する玉名市高瀬地区周辺は、玉名納涼花火大会、高瀬裏川花しょうぶ祭り等のイベントや河川敷における野球・ラグビーなどのスポーツ利用の他、緑豊かな癒しの場として日常的な散策にも多く利用されています。また、高瀬地区周辺には歴史的な建造物が多く存在し、加藤清正公の菊池川治水事業の歴史を伝える「石ハネ」や、平田船が行き交い、菊池川流域米の集散拠点として栄えた地域の歴史を物語る「高瀬船着場跡」等が残されています。

「玉名都市計画区域マスタープラン」では《人と自然がひびきあう県北の都 玉名》を目指し、菊池川の水辺空間を憩いの場として積極的な活用を図ることが謳われています。そのために、玉名市中心市街地と菊池川が接する高瀬地区の「まちづくり」と歴史的な史跡を活かしつつ、安全で快適な水辺空間を創出する「かわづくり」が一体となり、菊池川を軸とした地域の活性化や地域交流の促進、治水安全度や河川空間利用者の安全性の向上などを目的とした「高瀬地区かわまちづくり」推進のための様々な議論を行ってきました。

本計画書はこれまで議論してきた「高瀬地区かわまちづくり」の整備内容や利活用計画、維持管理計画を「高瀬地区かわまちづくり計画書」としてとりまとめたものです。

今後は本計画書にもとづいて高瀬の「かわとまち」を結ぶ一体的な整備や親水性に優れた河川空間の創出、より多くの地域住民の河川利用が推進され、玉名市が実施するまちづくりをより魅力あるものにし、新たな賑わいの場の創出を期待するものです。

平成 25 年 1 月
高瀬地区かわまちづくり協議会



古地図「菊池川全図」より

1. 菊池川及び玉名市の概要

1.1 菊池川の概要

菊池川は、その源を熊本県阿蘇市深葉（標高 1,041m）に発し、迫間川、合志川、岩野川等を合わせながら菊鹿盆地を貫流し、山間部を流下したあと、玉名平野に出て木葉川、繁根木川を合わせ有明海に注ぐ、幹川流路延長 71km、流域面積 996km² の一級河川です。

菊池川は、熊本県北の菊鹿盆地や玉名平野の穀倉地帯を流れ、舟運が発達した河川です。玉名市はその菊池川の下流部～河口部に位置し、江戸時代には重要な物資の集積地として栄えていました。

現在においても、菊池川は玉名平野を潤し、豊かな自然を育んでいます。

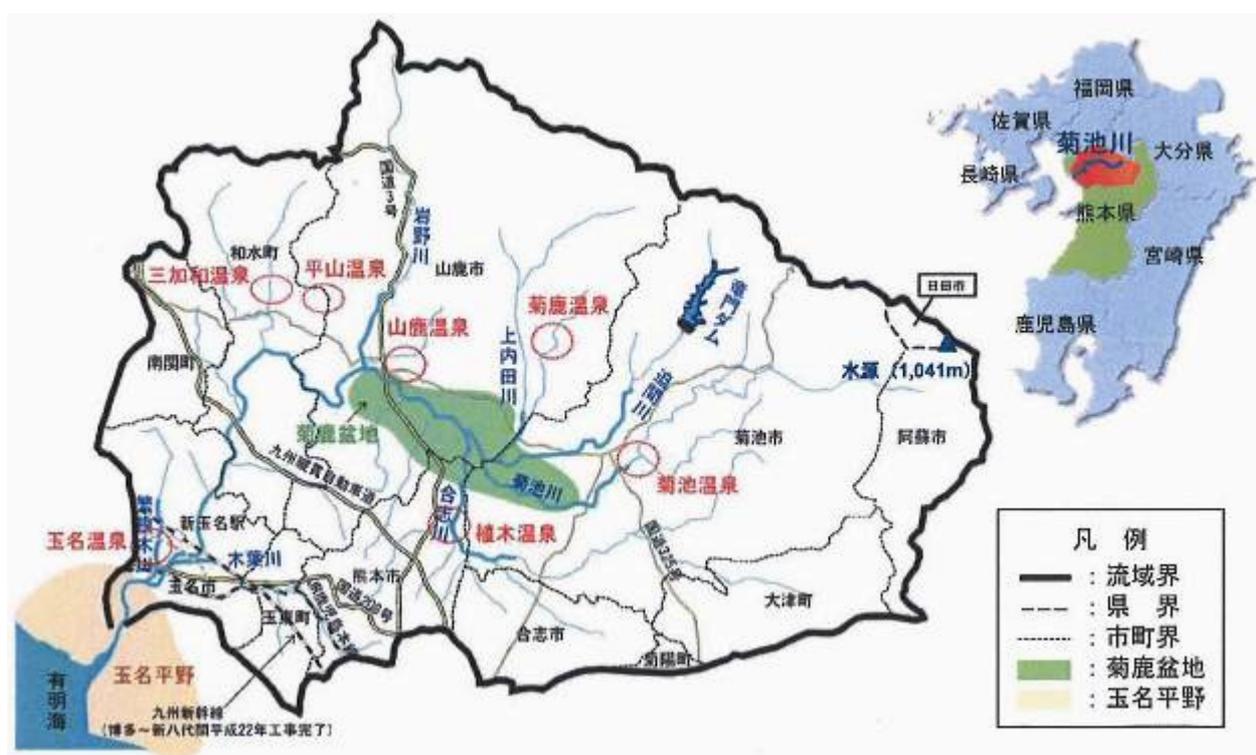


図 1.1 菊池川水系流域概要図

1.2 玉名市の概要

本市は熊本県北西部に位置し、米やトマトをはじめとする野菜、イチゴやみかんなどの果実類の生産や水産業が盛んです。

また、有明海、菊池川、小岱山や金峰山系の山々など、豊かな自然や多数の古墳が点在し、観光資源にも恵まれています。市の北部の小岱山の麓には 1300 余年の歴史と泉質の優秀さを誇る玉名温泉、一方、南部の有明海を望むみかん園の丘にある小天温泉は、夏目漱石の名作「草枕」の舞台として知られています。

高瀬地域は、古代から舟運によって発展して来た地域であり、室町時代には中国などの外国船が出入りする国際貿易港として栄え、鎖国してからは、菊池川上流域の年貢米の集積や輸出で賑わったとされており、高瀬船着場跡（俵ころがし）周辺の石造りの施設は、活況を呈した菊池川舟運の歴史を今に伝える貴重なものです。

JR 鹿児島本線や九州縦貫自動車道、有明フェリーなど、交通の便に恵まれている上に、平成 23 年 3 月には九州新幹線が全線開業し、本市に新玉名駅が整備されました。今後の観光の振興が期待されています。



図 1.2 玉名市位置図



図 1.3 玉名市の主要な観光資源



【玉名温泉】



【玉名市歴史博物館ころろピア】



【高瀬商店街（高瀬蔵）】



【裏川水際緑地】



【高瀬目鏡橋】



【高瀬船着場跡（俵ころがし）】



【西郷小兵衛戦死の地碑】



【菊池川堤防のハゼ並木】



【大坊古墳】

図 1.4 主な観光資源（玉名市 HP より）

1.3 現在進行しているまちづくり計画

1.3.1 第1次 玉名市総合計画（H19～28年度）

この計画の中で、水辺公園や歴史公園を、歴史を学ぶ機会のある場であると同時に観光施設として利活用することとしています。

環境問題への取り組みとしては、菊池川流域一帯となった水質調査や清掃事業等を実施しており、今後は啓発イベントや表彰制度の充実を図りつつ推進して行くこととしています。

また、観光振興での取り組みの中では、多様化する観光ニーズに対応するため、歴史・文化・自然・景観・食・スポーツ・環境等、あらゆる観光資源を活かしたメニューの開発や地域の特色を活かした体験型メニューの創出等の施策を掲げており、高瀬地区の豊富な観光資源が活用できるものとなることが期待されます。

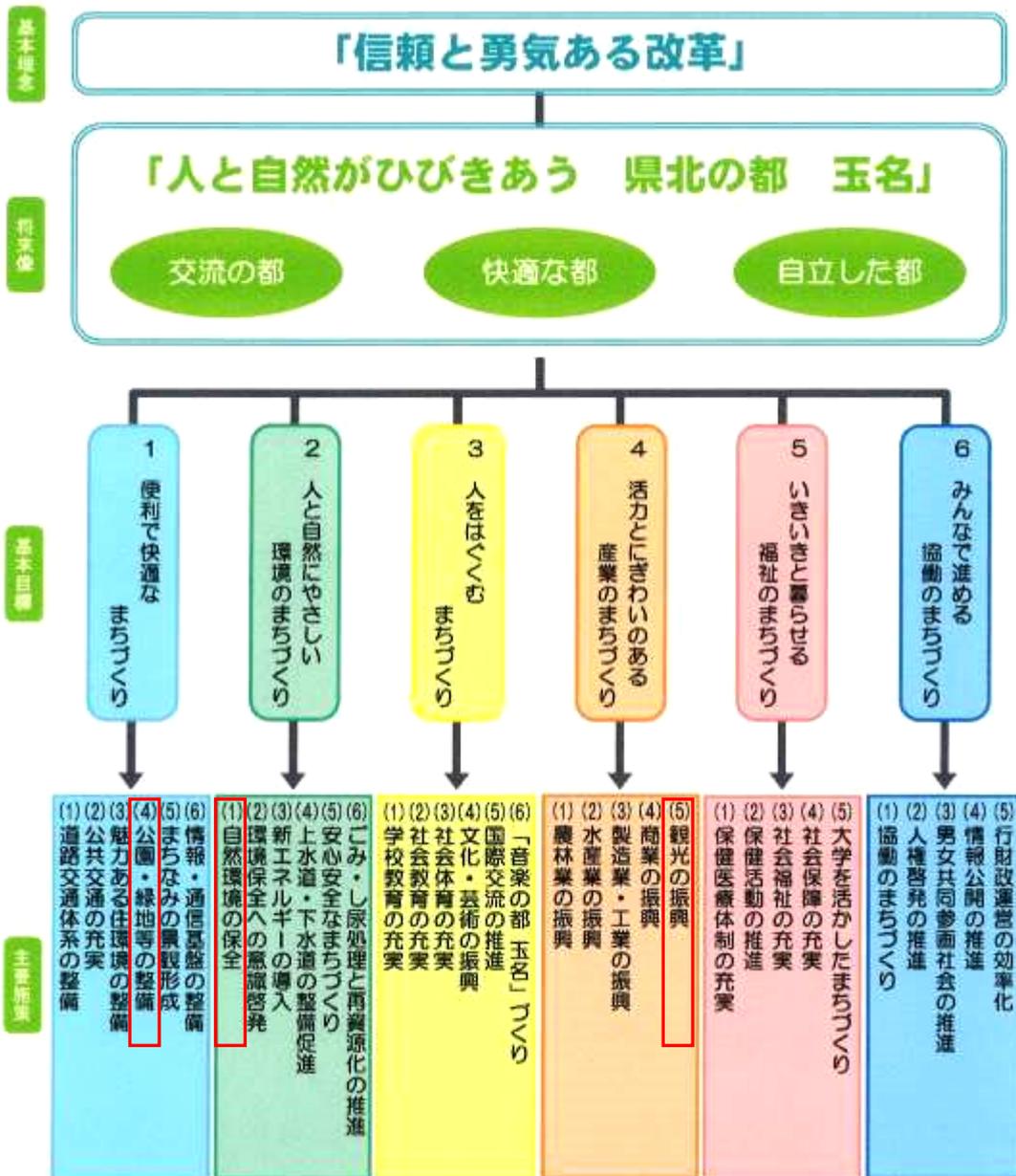


図 1.5 第1次 玉名市総合計画

出典：『第1次 玉名市総合計画（平成19～28年度）』

1.3.2 玉名都市計画区域マスタープラン

「都市計画区域マスタープラン」は、熊本県の計画で、概ね20年後の県下の都市の姿を展望した都市計画の基本的な方向性を示すのもので、都市計画法に基づき、玉名市のプラン（玉名都市計画区域マスタープラン）においては、平成24年3月に最終案が公表されました。その内容は以下の通りです。

将来都市構造			
<p>本区域の都市構造としては、熊本市、荒尾市などの他都市と連絡する国道208号や主要地方道玉名八女線などの幹線道路を都市連携軸として位置付ける。また、阿蘇外輪山に源を有し、有明海まで注ぐ菊池川により水と緑の軸を構成する。</p> <p>市街地ゾーンとして、玉名市役所や玉名駅、岱明総合支所に近接する商業地や住宅地を位置付け、農業ゾーンとしては菊池川流域の田園地帯、自然保全ゾーンとしては区域北部の山林をそれぞれ位置付ける。</p> <p>さらに、文化拠点として文化施設等が集積する地域、交流拠点として九州新幹線新玉名駅を中心とした地域、観光拠点として玉名温泉街を中心とする地域、レクリエーション拠点として市内に点在する蛇ヶ谷公園などの大規模公園がある地域を位置付ける。</p>			
地域（ゾーン）ごとの将来像			
中心拠点	玉名市役所を中心に、国道208号沿線及び玉名駅周辺地区と併せた一帯を中心拠点として位置付け、商業・業務サービス、情報発信等の都市機能の集積を図り、安全で快適な利便性の高い魅力ある市街地の形成を図る。	地域拠点	岱明総合支所周辺を地域拠点として、教育・文化、情報発信の都市機能の集積を図り、中心拠点に次ぐ市街地の形成を図る。
文化拠点	歴史博物館ころもピア、玉名市民会館、玉名市文化センターなどの集積する地域では、既存の文化遺産の保全や文化施設の有効活用を進め、文化活動の拠点形成を図る。	交通拠点	九州新幹線新玉名駅を中心とした地域は、県北地域の玄関口にふさわしい観光案内などの情報発信機能、交流機能、居住機能等を誘導することによって、新たな交流拠点の形成を図る。
観光拠点	由緒ある玉名温泉街を中心とした地域を本区域の観光拠点として位置付け、風情ある街なみ等の醸成に努めつつ、交通の利便性や安全性の向上を図り、魅力的な都市観光空間の形成を図る。	レクリエーション拠点	蛇ヶ谷公園を中心とする地域、桃田運動公園を中心とする地域、岱明中央公園、浮田池周辺、松原海水浴場などは、市民の健康増進とふれあいの場としての機能充実を図り、本区域のレクリエーションの拠点形成を図る。特に松原海水浴場は、県北地域唯一の海水浴場であり、既存施設の有効活用や周辺資源との一体的な環境整備に努める。
市街地ゾーン	中心拠点及び地域拠点に近接して形成される商業地、住宅地等を主とした都市的土地利用の高い地域を本区域の市街地ゾーンとして位置付け、商業施設や公共施設へのアクセス性など生活利便性の高い市街地の形成に努める。	農業ゾーン	区域北部の山林は、森林を保全する。また、借景などによる市街地の景観形成への活用、休息やレクリエーションの場としての活用に努める。
自然保全ゾーン	用途地域外の区域における伊倉、大浜、滑石等の集落を田園居住エリアとして位置付け、歴史や文化、現在の集落形態等の地域特性に配慮した生活環境の整備に努める。		—

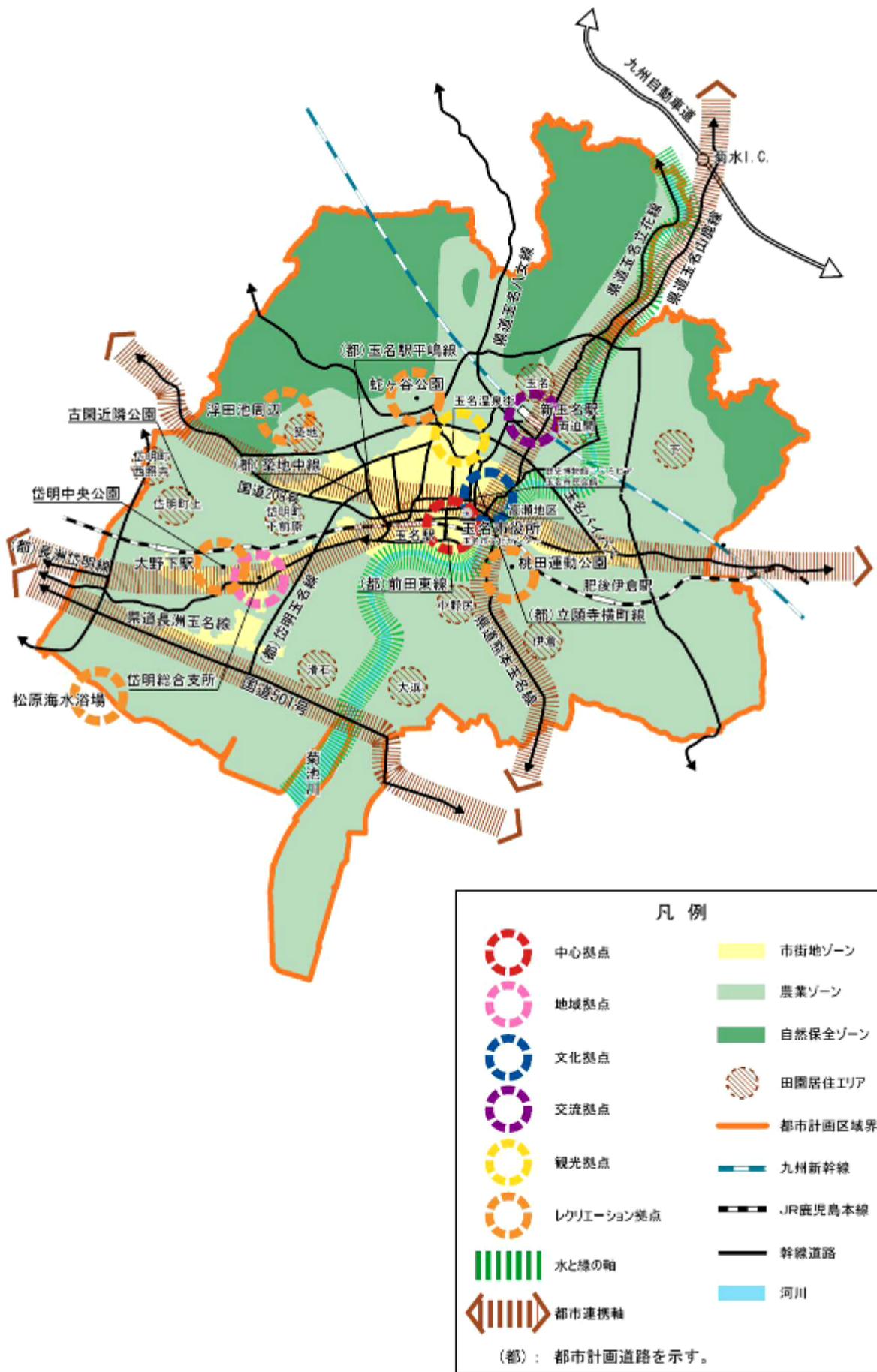


図 1.6 市街地図像

出典：『玉名都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（玉名都市計画区域マスタープラン）』（平成 23 年 3 月 30 日）

1.3.3 玉名 21 の星事業（玉名町校区）

「玉名 21 の星事業」とは、旧玉名市が行った地域づくり運動「一区一輝運動」を継続・発展させ、市内の小中学校区をコミュニティの単位で住民主体の地域づくりに取り組んでもらい、コミュニティの自治、自立と活性化を促進しようというものです。事業の期間は、平成 18 年度から平成 25 年度までの 8 年間です。

玉名町校区のテーマ：美しく住みよいまち、歩きたくなるまち

- ①歴史部会：校区内の歴史資源を再認識するとともに、親子や友だち同士、地域住民とのきずなを深めようと史跡巡りウォークラリーを開催しています。また、歴史資料を盛り込んだガイドブック「私たちのまちの宝」で校区の宝の周知活動を行い、校区内の名所や史跡に説明看板を設置しています。



図 1.7 設置した説明看板

- ②はぜ祭り部会・和ろうそく部会：国の登録記念物となった「菊池川堤防のハゼ並木」の紅葉と菊池川が織り成す景観を楽しんでもらうために毎年 11 月 23 日に開催している「はぜ祭り」は、多くの人で賑わいを見せています。

祭りでは、風情ある玉名の原風景の中、和ろうそく作り体験などを通して玉名の魅力を発信しています。

1.3.4 都市再生整備計画事業

都市再生整備計画事業は、地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを実施し、全国の都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図るための制度です。玉名市の計画は、計画期間および交付期間は平成 22 年度から平成 26 年度、県北広域交流拠点である新玉名駅と中心市街地の連携による観光交流を目指し、以下の目標と整備方針を定めました。

	内 容
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・「玉名温泉地区」と「高瀬地区」、「新玉名駅地区」の回遊性を高め観光入込客の増加を目指す ・新幹線新駅利用性確保のための施設整備と観光客利用促進のためのPR ・観光客の誘導や滞留を促進し、誰もが安全に安心して訪れることのできるまちづくりを目指す
整 備 方 針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観光回遊ルートの整備 <ul style="list-style-type: none"> ・「新玉名駅地区」から歴史的資産に富んだ「高瀬地区」を經由して「玉名温泉地区」へ誘導するため、回遊ルートとなる公共ゾーンの快適なアクセス道路の整備や排水路の整備を図り、地区住民や来訪者の安全な通行を確保する。 ・玉名温泉地区を起点に玉名バイパスと国道 208 号線への道路網を整備することにより、観光宿泊者の利便性を確保する。 2. 新駅周辺の利便性確保と新駅PR活動 <ul style="list-style-type: none"> ・新駅周辺について、利用者の利便性確保のために駐車場の整備を行うとともに、快適性とゆとりをもった環境を形成するために公園整備を行う。 ・新駅開業前の交付期間中については、それら公共施設の活用方策として、新駅を新たな観光の玄関口とするPRを行う。 3. 観光交流促進のためのまちづくり活動 <ul style="list-style-type: none"> ・新玉名駅から観光の核となる「玉名温泉地区」と歴史的観光資源に富んだ「高瀬地区」を観光ルートとするため、イベント等を開催するとともに、地域の歴史的な資産や観光地などを案内する観光案内人の育成を図る。 ・しょうぶ祭りや高瀬蔵を活用した、歴史・文化・観光物産など中心市街地の核となるよう多角的な活用を図り、商店街の活性化を目指す。 ・まちづくり事業の目標が達成されたのか効果発現要因の整理を行い、事業の実施によって得られた知見を活かし、今後のまちづくりに関する方策を検討する。



図 1.8 玉名市における都市再生整備計画の区域

出典：『都市再生整備計画（第1回変更）第2期新玉名駅・玉名温泉・高瀬地区』（平成 23 年 5 月）

2. かわまちづくり構想

2.1 高瀬地区かわまちづくりのテーマ

「高瀬地区かわまちづくり」では、『**県北の都に「歴史」「自然」と「にぎわい」がとけ込む水辺空間の創出**』をテーマとし、地域の自立的・持続的な活性化及び治水上・河川利用上の安全性向上に貢献することを目指します。

高瀬地区かわまちづくりのテーマ

**県北の都に「歴史」「自然」と「にぎわい」がとけ込む
水辺空間の創出**

高瀬地区かわまちづくりの方向性

「歴史」「自然」

高瀬船着場跡等の保存

菊池川に育まれた歴史を後世に伝えるとともに、伝統を活かした水辺空間を形成する。

歴史的景観の創出

川と町のそれぞれが持つ歴史的景観が融合する水辺空間を創出する。

歴史資源へのアクセスの向上

高瀬地区周辺に点在する歴史資源を市民が容易に鑑賞できるよう、歴史資源間のアクセス性を高める。

河川環境の保全

高瀬地区周辺の菊池川に生きる魚など、生きものがすめる河川環境を保全する。

「にぎわい」

人が集まる拠点の形成

高瀬地区を訪れた人をいざなうとともに、地域の催しなどが開催できる拠点を形成する。また、地域の活力となる利活用とそれを支える維持管理を展開する。

水辺への近づきやすさの向上

水際まで安全に近づけるようにすることで、菊池川の水面利用を促進させる。また、菊池川でのレジャー等で利用できるようにする。

回遊性・連続性の向上

菊池川周辺の関連計画との結びつきを高め、魅力・資源を楽しめるよう、徒歩・自転車での回遊性・連続性を高める。

2.2 高瀬かわまちづくりへの意見

高瀬地区で行いたいと考える整備について協議会で議論した中で、最も多くの意見・要望が出されたのが、高瀬船着場跡についてです。また、こうした観光資源となりうるものを、駅を起点とした周遊ルートとしてつなげたいとの意見も多く出ました。その他の意見も含めて、今後の計画の元となる図を以下に示します。



図 2.1 高瀬地区かわまちづくりへの意見

2.2.1 高瀬船着場跡（俵ころがし）周辺

(1) 現状

玉名永徳寺の高瀬船着場跡（俵ころがし）周辺は、近世、菊池川舟運の一大拠点として活況を呈した高瀬地域の歴史を物語る貴重な史跡です。

年に1度、五穀豊穰と地域の繁栄を願って行われる「大俵まつり」では、オープニングセレモニーにあたる米俵積出し式がこの俵ころがしで行われます。こうした際には、玉名市が草刈りや堆積した土砂の撤去を行っています。その他の時期には、石垣がよく見えないほど草が高く繁茂していることが多くあります。



図 2.2 草が生い茂った状態の高瀬船着場跡



図 2.3 除草後の高瀬船着場跡

(2) 目標

歴史的価値の高い高瀬船着場跡（俵ころがし）は、当時の石組みで形成されており、これらを活かした水辺整備が望まれます。

よって、高瀬船着場跡（俵ころがし）については、景観に配慮した水際を形成するとともに、生きものの生息に適した環境づくり等、史跡と一体となった水辺空間を目指し、観光客等が訪れる魅力ある名所づくりに向け、今後も議論を重ねていく必要があります。

現在、高瀬船着場跡（俵ころがし）の河川側には、河川改修の必要性から緊急工事車両等の通路として造られた仮設運搬路があります。これは、度重なる出水による被害を受け設置されたもので、現在では地域の日常的な散策等や観光客にも利用されています。

今後も引き続き、治水上必要な機能や強度について問題のない高瀬船着場跡（俵ころがし）の保全・整備に向け、その方向性、具体的整備や利活用等について議論を重ねていきます。

高瀬船着場跡等の保存 歴史的景観 歴史資源へのアクセス 河川環境の保全	人が集まる拠点 水辺への近づきやすさ 回遊性・連続性
--	----------------------------------

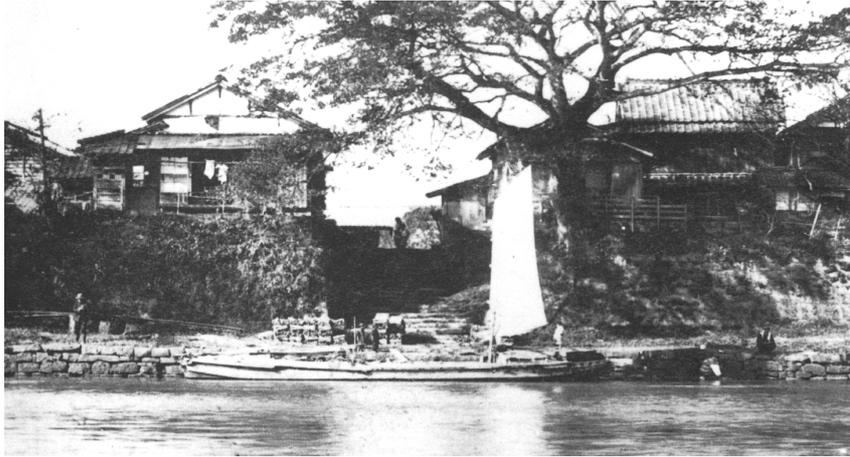


図 2.4 高瀬船着場（大正時代）



図 2.5 河岸が崩れかけている高瀬船着場跡（昭和 30～40 年代）

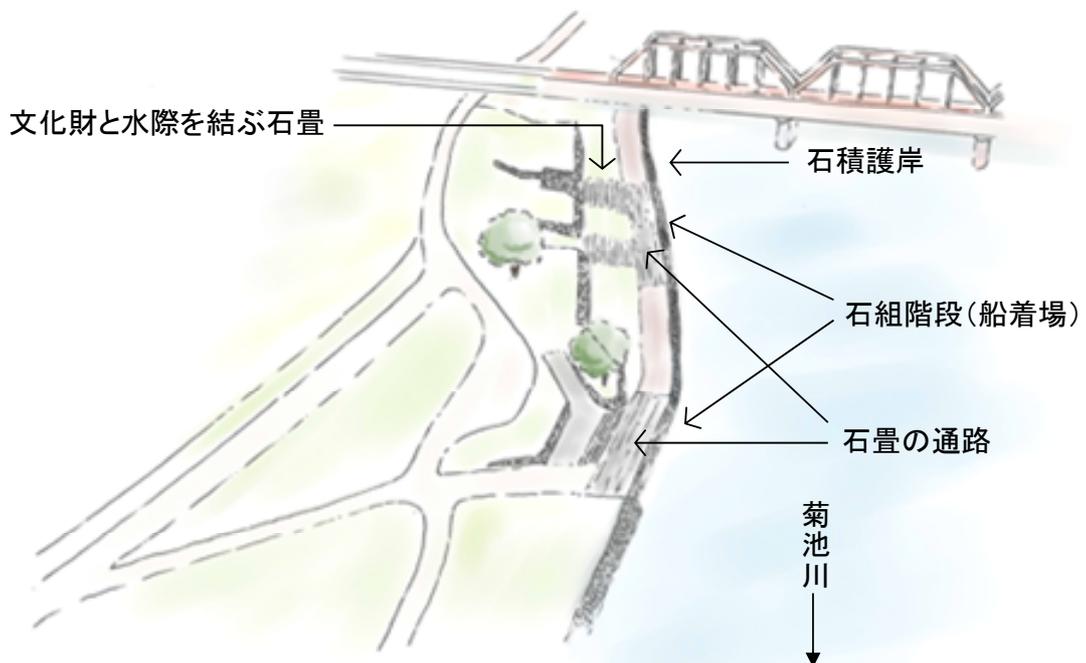


図 2.6 高瀬船着場跡（俵ころがし）周辺の水辺整備イメージ

2.2.2 周遊ルート（ネットワークルート）

(1) 現状

玉名市には多くの史跡や景観資源があり、高瀬船着場跡（俵ころがし）の周辺にも、秋に紅葉が見事なハゼ並木や西郷小兵衛戦死の地碑、初夏に花しょうぶ見物で賑わう裏川水際緑地や、高瀬蔵のある高瀬商店街等があります。

玉名駅を起点にこうしたものをめぐりながら高瀬商店街まで歩く周遊ルートとしたい、との意見が、協議会のみならず玉名市民からも寄せられています。

(2) 目標

周遊ルートとしては、玉名駅から高瀬船着場跡（俵ころがし）を経由して高瀬商店街へ行くルートが考えられます。

ハゼ並木から高瀬船着場跡（俵ころがし）に最短で行くには、間にある繁根木川と菊池川の合流点付近に橋がないことから、今後、経済性・機能性等を考慮しながら、渡河の必要性及び整備の具体的な施工法等について、今後も議論を重ねていきます。

高瀬船着場跡等の保存 歴史的景観 歴史資源へのアクセス 河川環境の保全	人が集まる拠点 水辺への近づきやすさ 回遊性・連続性
--	----------------------------------

現在想定している周遊ルートと観光資源の位置を以下に示します。

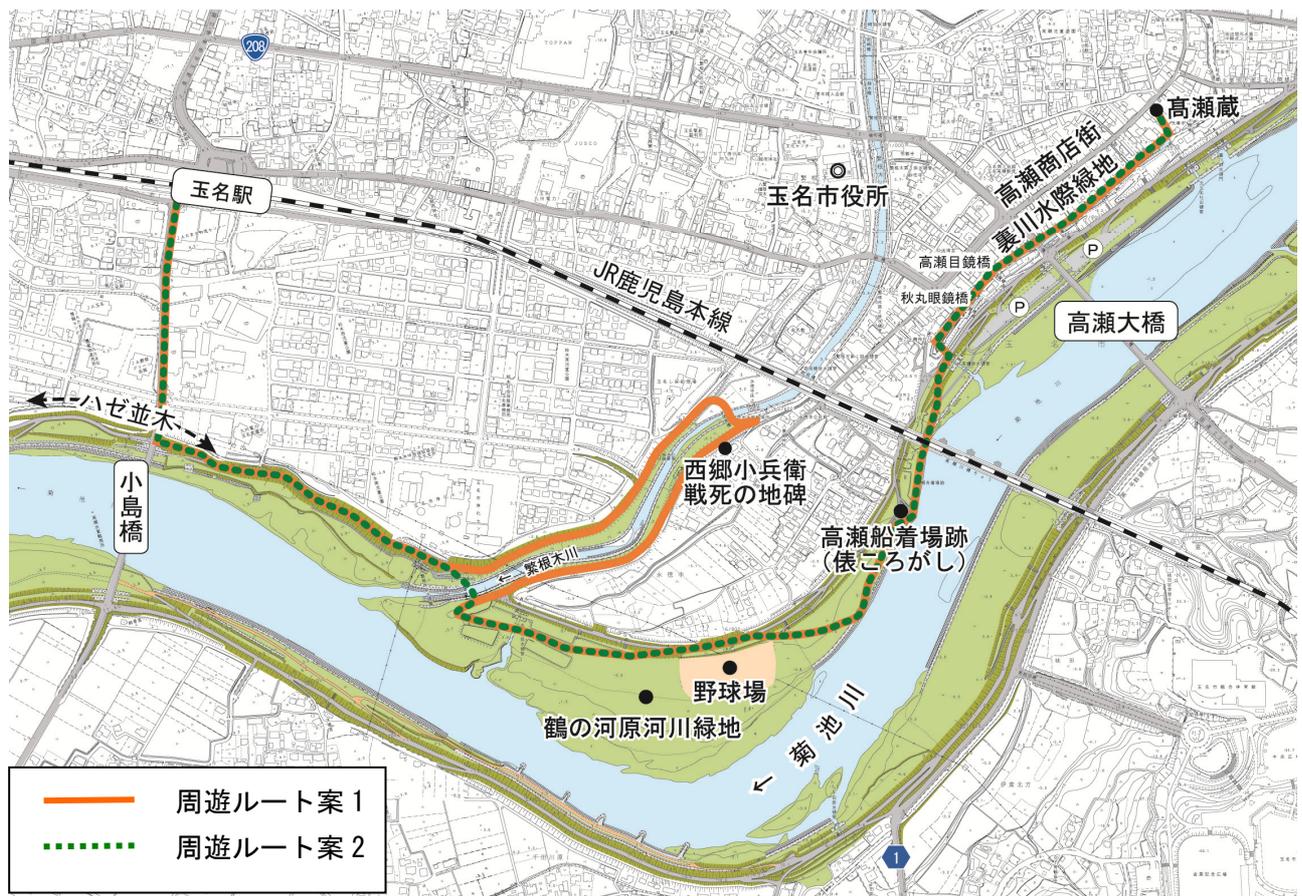


図 2.7 周遊ルート（案）と観光資源の位置図

2.2.3 その他

(1) 管理用通路

災害時の復旧活動や緊急工事車両等が通行できるように管理用通路の整備は重要です。日常時には、河川利用の利便性・安全性を高めるとともに、高瀬船着場跡（俵ころがし）周辺においては、景観に配慮した管理用通路となるよう今後も議論を重ねていきます。

高瀬船着場跡等の保存 歴史的景観 歴史資源へのアクセス 河川環境の保全	人が集まる拠点 水辺への近づきやすさ 回遊性・連続性
--	----------------------------------



図 2.8 石畳の通路（事例）

(2) 木陰・並木

季節ごとの花や紅葉を楽しめ、木陰をつくる樹木を植えることで、散策や観光が楽しめるようになると考えられます。今後は、維持管理を含めて議論を重ねます。

高瀬船着場跡等の保存 歴史的景観 歴史資源へのアクセス 河川環境の保全	人が集まる拠点 水辺への近づきやすさ 回遊性・連続性
--	----------------------------------



図 2.9 河川沿いの花木（事例）

(3) 昭和時代の水辺

昔、菊池川は広い砂地があり、地域の子どもたちの魅力的な遊び場でした。協議会では「砂地を復元し、子どもたちが菊池川とふれあえる場所にしたい」として、今後、現状ある高瀬大橋付近の砂地の活用や砂地の復元などの議論を重ねます。

高瀬船着場跡等の保存 歴史的景観 歴史資源へのアクセス 河川環境の保全	人が集まる拠点 水辺への近づきやすさ 回遊性・連続性
--	----------------------------------



図 2.10 砂地の水辺で遊ぶ子どもたち（昭和初期）

(4) JR 鉄橋の橋脚の修景

高瀬船着場跡（俵ころがし）の少し上流側に架橋されている JR の鉄橋の橋脚は、明治時代当時のレンガ積みそのまま遺されており、フランス積みの技法で造られた貴重な史跡です。現在は、河床の深掘れ対策として橋脚の周りに矢板が設置されており、高瀬船着場跡と調和の取れた景観になることが望まれます。

これも地域の大切な財産のひとつであることから、今後、鉄道管理者等と意見交換できるよう働きかけるとともに、将来的には、周辺と調和の取れた景観づくりに向け、議論を重ねます。

高瀬船着場跡等の保存 歴史的景観 歴史資源へのアクセス 河川環境の保全	人が集まる拠点 水辺への近づきやすさ 回遊性・連続性
--	----------------------------------



図 2.11 菊池川に架かる鉄道橋の橋脚

2.3 利活用の方向性

高瀬地区かわまちづくりとして、今後、地域の活性化に結びつくよう、さらに具体的な検討を重ねていく必要がありますが、利活用について以下に3つの方向性を示します。

高瀬船着場跡等の保存 歴史的景観 歴史資源へのアクセス 河川環境の保全	人が集まる拠点 水辺への近づきやすさ 回遊性・連続性
--	----------------------------------

2.3.1 高瀬船着場跡を観光拠点として活用

歴史的な価値の高い高瀬船着場跡（俵ころがし）を観光の拠点となるようにして、地域の活性化に役立てることが望まれます。

そこで、今後、これらの歴史資源を活用した利活用の具体的な計画を議論します。

2.3.2 子どもたちの環境学習や体験活動の場

菊池川の自然を次世代に引き継いでいくためには、たくさん子どもたちに菊池川で遊んだ経験が必要と考えられます。そのためにも、安全に水辺に近づける水際を形成するとともに、生きものが生息できる環境づくりに取り組むことが重要です。そこで、子どもたちと一緒に菊池川の環境を学んだり、昔の川遊びを伝える体験活動を行うなどの機会を提供していくことを考えます。また子どもたちが菊池川に関心を持ってくれば、大人も菊池川にふれあってくれると期待します。



図 2.12 河川での環境学習や体験活動（事例）

2.3.3 広大な河川敷を利用したイベントや防災訓練

広い河川敷の使い道としては、交流会等のイベントや催し物の開催、また、グラウンドゴルフ等のスポーツなどで利用することが考えられます。

また、地域に役立つ催しとして、防災訓練を兼ねた運動会等など、今後、具体的な企画づくりに向け、議論を重ねます。

2.4 維持管理

維持管理の主体別に行うべき役割の分担としては、以下のように考えていますが、かわまちづくりを推進するにあたり、維持管理の実施は、地域が一体となること、多くの方の参画による継続可能な協力が欠かせません。

そのため、平成 25 年度には、高瀬地区の維持管理を実行・運営する「高瀬地区かわまちづくり実行委員会（仮称）」を立ち上げる予定です。

役割の考え方

■河川管理者

- ・堤防や護岸等の治水安全上重要な施設の点検や補修等を行います。
- ・水害等によって被災した堤防や護岸等の復旧を行います。

■玉名市

- ・占用した場所の清掃や草刈り等、利用できる状態を保ちます。
- ・占用した場所の清掃や草刈り等に参加する人々を募ります。

■利用者・市民団体等

- ・ボランティアで清掃や草刈り等に参加します。
- ・利用する際に清掃や草刈りを行います。



図 2.13 清掃活動の状況（事例）

3. 巻末資料

3.1 推進体制

かわまちづくりを推進するにあたって、平成 24 年 9 月に地域住民や玉名市、菊池川の管理者である国土交通省等から構成した「高瀬地区かわまちづくり協議会」を組織し、整備内容や利活用・維持管理計画について議論してきました。

平成 25 年度には、取り決めた様々な利活用や維持管理を実践する組織を立ち上げ、地域における活動を具体的に実践して行く予定です。

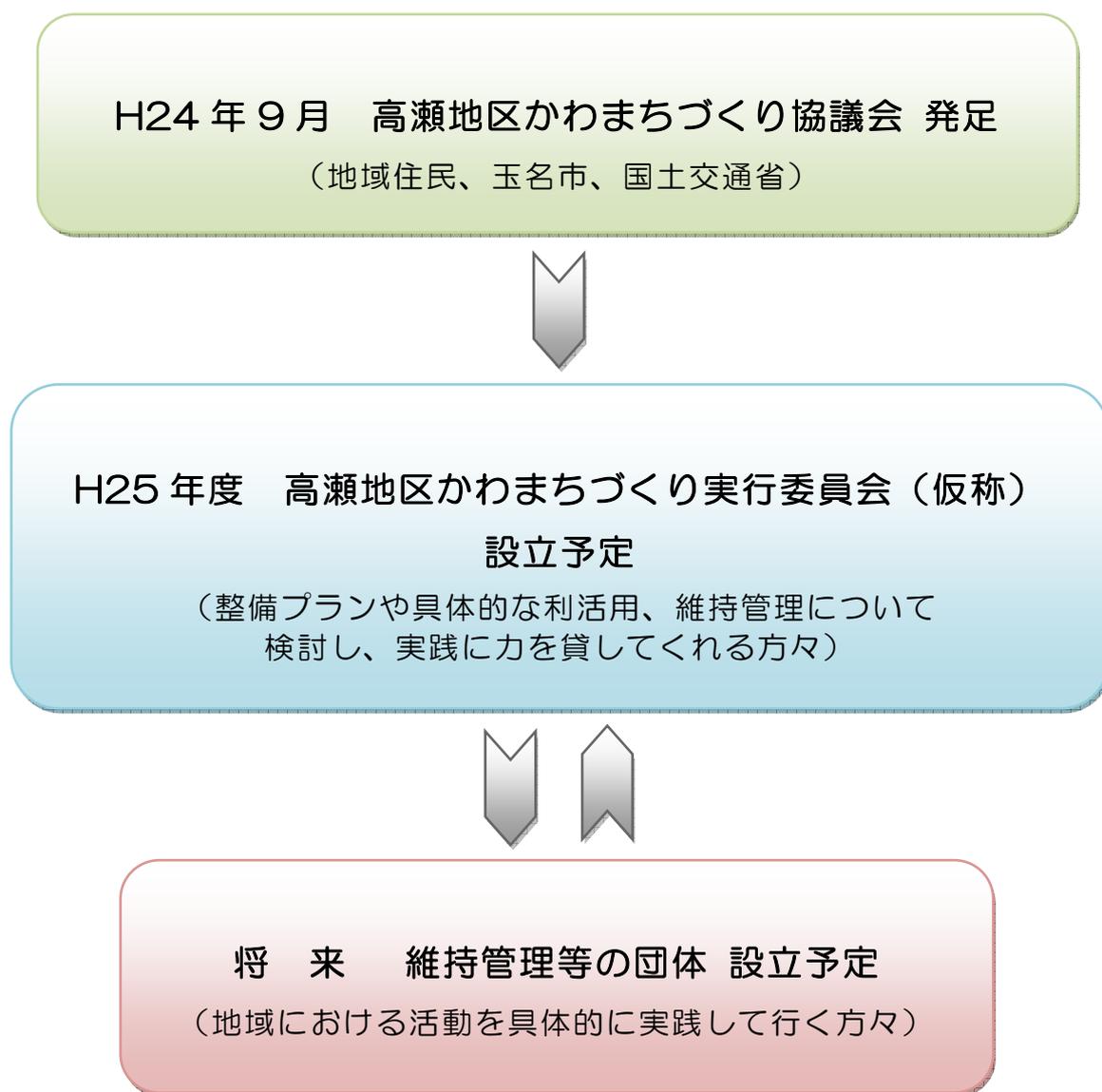


図 3.1 推進体制

3.2 計画策定の経緯

「高瀬地区かわまちづくり協議会」は平成24年度中に計4回実施し、他地域のかわまちづくり事業等の視察研修も行いました。

協議会は今後も継続的に開催していく予定です。

表 3.1 協議会等の開催概要

回	日 時	場 所	議 題	
協 議 会	第1回	平成24年 9月28日(金) 19:00~21:00	玉名市文化センター 3階 第2研修室	<ul style="list-style-type: none"> ・会長選任について ・かわまちづくり計画について
	第2回	平成24年 10月22日(月) 19:00~21:00	玉名市文化センター 3階 和室	<ul style="list-style-type: none"> ・高瀬地区の利活用と 維持管理について
	第3回	平成24年 11月20日(火) 19:00~21:00	玉名市文化センター 3階 和室	<ul style="list-style-type: none"> ・高瀬地区のかわまちづくり計画 (案)について
	視察研修 第4回	平成24年 12月19日(水) 視察研修 9:00~17:00 協議会 17:00~18:30	視察研修 ・御船町、熊本市 協議会 ・玉名市文化センター 3階 第2研修室	視察研修 <ul style="list-style-type: none"> ・御船地区・向山春日地区のかわ まちづくり計画と川尻船着場の 視察 協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・視察研修について(意見・感想) ・高瀬地区のかわまちづくり計画 (案)について



図 3.2 協議会の開催状況

3.3 協議会委員

「高瀬地区かわまちづくり協議会」の委員および事務局は以下のとおりです。

表 3.2 「高瀬地区かわまちづくり協議会」委員名簿

所 属	氏 名	役 職
地元の各種団体等	渡邊 宣二	玉名町区長会長
	上嶋 收	玉名町校区まちづくり委員会会長
	山寄 憲一	玉名商工会議所副会頭
	吉永 正弘	高瀬商店会長
	柿添 克也	玉名観光協会事務局長
	草村 幸寛	玉名温泉観光旅館協同組合理事長
	前川 清一	玉名市文化財保護審議会副会長
	三原 眞祐	菊池川漁業協同組合副組合長
行政機関等	檜垣 裕	国土交通省菊池川河川事務所技術副所長
	國徳 健二	熊本県玉名地域振興局総務振興課長
	小山 眞二	玉名市地域振興課長
	仲山 裕貴	玉名市商工観光課長
	小山 正義	玉名市文化課長
事務局	植西 清	国土交通省菊池川河川事務所調査・品質確保課長
	三次 祐二	玉名市都市計画課長